

北海道新幹線並行在来線対策協議会 第13回後志ブロック会議 議事録

〔 日 時：令和4年3月27日（日）10:00～10:30
場 所：後志総合振興局（倶知安町） 〕

1 開 会

2 挨拶

3 議 題

（1）「余市・小樽間」個別協議について

【北海道交通企画監（座長）】

それでは早速議事進行させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。議題1の余市・小樽間個別協議について、余市・小樽間につきましては、これまでの協議の中で、余市町は「鉄道方式」、小樽市は「保留」とされておりましたことから、小樽市長、余市町長、そして、道の3者でこれまで個別協議をやってまいりました。

昨日、個別協議を開催し、その結果について、代表して、小樽市長からご報告をお願いしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

【小樽市長】

私の方から昨日の余市・小樽間の個別協議の結果についてご報告をさせていただきます。資料が配布されておりますので、資料をご覧くださいながら、お聞きいただければと思います。

まず、この地域での鉄道の役割がかつてとは大きく変わった中で、今後の後志地域を俯瞰的に見たときに、地域住民や来訪客などの利便性を高めるため、新幹線駅や後志自動車道のインターチェンジを結ぶ交通ネットワークの整備が一層重要となることを確認いたしました。

そして、余市・小樽間の鉄道存続にあたっては、多額の初期投資や運行経費、将来の輸送密度の減少により、多駅化・多頻度化など、あらゆる手立てを講じたとしても、大幅な収支改善は見込めないこと、鉄道の運行経費への国の支援がないことや、災害時における貨物の代替ルートとしての活用が見込めないこと、さらには、鉄道廃止の場合の撤去費や、災害時の復旧費といった潜在的なリスクも考慮すると、将来にわたって、小樽市、余市町、北海道の3者で鉄道を運行することは困難であるとの考えに至りました。

一方、「余市・小樽間」のバス運行につきましては、ダイヤの改正や増便などにより、朝晩の利用の集中する時間帯を含め、現在鉄道を利用している方の移動を確保していくことや、病院や学校などの目的地に直行するバスルートの設定、高速道路の活用による所要時間の短縮、バス停留所の集約といった交通拠点の整備、バスロケーションシステムの導入、交通ネットワークの整備など、さらなる利便性向上に向けて取り組んでいくことが重要となることを確認いたしました。

結論といたしましては、この地域の公共交通は、新幹線や高規格道路の延伸などの新しいインフラを活用し、交通ネットワークを再構築することで、地域住民や訪問客の利便性を向上させることができると考えられることも踏まえまして、「余市・小樽間」については、「鉄道方式」、「バス方式」のそれぞれのメリット・デメリットとして、輸送力・速達性などの利便性や、地域負担の経済性・持続性を比較し、未来志向で地域を俯瞰しながら、総合的に判断した結果、今後バスを中心とした新たな交通ネットワークの構築に向けて、3者で検討を進めていくことで合意したところであります。以上でございます。

【北海道交通企画監（座長）】

ありがとうございます。それでは、余市町の齋藤町長、ご発言お願いできますか。

【余市町長】

昨日の3者協議につきましては、迫市長から報告あったとおりバス転換に同意するということが結論としてあったわけであります。もちろんこの路線の中でも、特に「余市・小樽間」は高い輸送密度を誇っていて、現時点で2,000人を超えているし、新幹線開業時であったとしても、1,500弱と、比較的高い輸送密度があるという線区であります。

他方で、様々な側面から、主に財政的な面で課題があり、今回、残念ながら並行在来線は廃線ということになるかと思えます。このことにつきましては、昨日の3者協議の後に、記者会見が行われまして、できればその様子を動画でアップしてほしいと思い、少なくとも文字起こししてほしいと思うんですけども、そこに全ての考え方を述べさせていただきました。

この問題は、もちろん地域公共交通をどう守っていくかという話であって、迫市長も私も未来志向で、後志地域は魅力のある地域で、今後新たな乗り換えができるということで、そこへのアクセスをきちんと整えることによって、住民等の利便性を高めることで、地域全体、北海道庁と一体となって、この地域の優位性を高めていくという思いで、未来志向で今回の決断をさせていただいたわけでございます。

他方で、地域の公共交通全体に目を向けますと、これだけの高い輸送密度がありながら、廃線に追い込まれるというようなエリアというのは、中々少ないと思うんです。やっと国の方でも国交省が主導で、鉄道事業者と地域の協働によるモビリティの刷新に関する検討会がやっとなってきたところであって、今後、国ですとか広域自治体である都道府県レベルでの公共交通の方向付けをきちんとしていかなければならないと私は考えておまして、今回のブロック会議での沿線自治体の首長の皆さんとの議論を踏まえて、全体の公共交通のあり方について論じることができたのではないかと考えております。

あと、私が言わせていただいたのは、この地域の魅力を高めて、利便性を高めるという思いは、沿線自治体の首長の皆さん全員同じ思いで、北海道庁とともに新しい後志地域のために取り組んでいくという思いで、今回の判断をさせていただいたということを強調させていただきたいと思えます。

いずれにせよ、今回のことでバス転換に向けて利便性が下がるようなことになってはいけなと考えていますので、鉄道を維持できなかつたとしても、住民生活ですとか旅客の利便性を損なわれないような方策をきちんと道と一緒にやっていくということを念頭に置きつつ、話をしていきたいということを述べさせていただきたいと思えます。

【北海道交通企画監（座長）】

ありがとうございます。ただ今の方向で、未来志向でこの後志地域の交通を道と沿線の首長の皆さんと、今後練り上げていくということでご判断されたということで、ご報告させていただきました。

この個別協議の結果を受けまして、後志ブロックとしての協議事項であります経営分離後の地域交通の確保方策について、「長万部・小樽間」は「バス方式」ということで、意見がまとまったということであります。この方向性で皆さんよろしいかの再確認させていただきたいと思えますが、いかがですか。よろしいでしょうか。

(異議なし)

そういうことで、この会議としては、「長万部・小樽間」はバス方式とすることを確認させていただきました。今後は、以前ブロック会議でお示ししましたバスルート並びにダイヤなどを基本としまして、バス事業者にも参画いただき、具体的な計画になるように練り上げなければなりませんので、その方向で協議を進めていくことにします。

なお、このバス運行に当たっての地域課題など、必要な対応が出てくるとは思いますけども、それについても振興局を中心に、我々交通企画課そして全体で国の支援などいただきながら、その進め方について皆さんと協議していきたいとします。この進め方などについて更にご意見などがあれば、ご発言をお願いしたいと思っておりますが、何かありますでしょうか。

【ニセコ町長】

バス転換に幹事会を中心として協議を進められるかと思っておりますが、地球環境負荷であるとか、ゼロカーボン、新たな未来志向の交通体系に積極的な研究・検討をして、できるだけ将来につながるような交通体系にできればありがたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【北海道交通企画監（座長）】

交通計画については、作りっぱなしということではなくて、常にその最適化を図っていく必要があるということと、やはり時代に合わせた技術革新にしっかり取り組んでいかないとかならないと思っておりますので、皆さんのお知恵をお借りしながら、まとめ上げていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。他にありますか。

【倶知安町長】

先ほど、小樽市長、そして余市町長からもお話ありました。本当に北海道も含めて、昨日まで、ギリギリまで、こういった議論をしていただいたということに敬意を表したいと思っております。私の方から、これまでの会議の中でも申し上げましたとおり、新幹線倶知安駅の周辺整備に関する整備スケジュールだとか、そういったところでの話をさせていただいたところでございますけども、やはり2030年度末の札幌延伸までの新幹線開業、この時点で倶知安駅の新幹線駅の周辺整備を一通り終えたいというのが町民のみならず、北海道民皆さんの願いだと私は認識してございます。そうした中で、これから展開するにあたっては、バス転換というのが本日皆さんの合意のもとで、このように決められたということもありますので、時期については、2030年度末ということにこだわらず、その整備の進め方などを勘案して、1日も早い前倒しということを、今後具体的に検討をお願いしたいと思っておりますのでございます。

北海道民、そして沿線自治体、JRにとっても、財政的な負担は、バス転換においてもかなり重要になってくるとは思います。そうした中で、いかに財政的な負担、あるいは財政以外での部分での負担、そういったものをいかに軽減してスムーズに公共交通のあり方を、未来志向型で展開していくことが大変重要と思っております。その手立てについて1日も早く進めていくことは我々の大きな責務であると思っておりますので、ぜひお願いしたいと思っております。

当然ながら、先ほど小樽市長からも報告あったとおり、代替となるバス運行について、バス事業者との体制構築調整という大変大きなテーマとなろうと予測しております。また、これからバスルート、ダイヤの編成、運転手不足の問題など様々な部分で、住民の方々は心配しています。利便性を本当に向上できるのか、そういったところが大きな課題と思っておりますので、そういった方向性については、節目節目で住民に対して情報発信し、共有しながら、2030年度末の開業に向けて、納得し合いながら進めていくということが大変重要だと思っておりますので、皆さんよろしくお願いいたします。

それと、高速道、倶知安・余市道路の事業の加速化についても、引き続き重要であり、今後の倶知安から蘭越、さらには黒松内まで、この流れの中でしっかりと着実に、しかも1日も早い実現に向けて、引き続き皆さんと協議していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【北海道交通企画監（座長）】

ありがとうございます。他にございますでしょうか。

【長万部町長】

今回、未来志向で大きな決断された小樽市、余市町に敬意を表したいと思っています。しかし、バス転換の決定をもって、今後はバス事業者さん、どなたがお受けになれるのか、どういう形になるのか、ということは最大の山を控えておりますし、これらの協議を未来志向に向かって、1日も早く協議開始をしながら、できれば前倒しをしていけるような形にさせていただけると、今倶知安町の方からも話がありましたけども、新幹線2030年度開業に向けての作業も非常に早まってくるので、その点をぜひ早いスピードでやっていただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

【北海道交通企画監（座長）】

ありがとうございます。他にございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、ただ今、倶知安町長、長万部町長から新幹線開業を見据えたまちづくりに向けまして、「バス転換の前倒し」についても、バスのルート、ダイヤの他に検討してはいかがかということのご発言がありました。

バス転換の前倒しについては、やはり沿線自治体の皆様の合意というのが必要になると思ひますので、その必要性については、しっかり幹事会の方で詰める必要があると思ひています。必要に応じて、幹事会にバス事業者を入れながら、将来の新幹線の新駅設置及び高規格道路延伸、これに対応した、しっかりした後志地域の地域交通ネットワークを作っていくかと思ひますので、そういう方向で、幹事会の方にまずは検討を委ね、その後ブロック会議で検討していくというような手法でよろしいでしょうか。

（異議なし）

それでは、その方向で進めて参りたいと思ひます。その他、ご発言ございますでしょうか。

【小樽市長】

今、倶知安町長、それから長万部町長から前倒しについて、ご発言がありましたけども、並行在来線は新幹線の開業時にJR北海道が経営分離するという事で同意をしているわけですが、バス転換によって経営分離を早めるということで、JR北海道の負担軽減になると考えておりますけれども、仮に沿線自治体、あるいは地域住民の皆さんの理解があつて、この経営分離が早まることによって、JRからバス転換に関わる支援というのは、現実的に考えられるのかどうか、この点、北海道がどのようにお考えになられているのか、ちょっとお示しいただければと思ひますが、いかがでしょうか。

【北海道交通企画監（座長）】

このことについては、理論上はあり得るのかなと思ひますが、当事者であるJR北海道さんの経営判断になると思ひますので、この点につきましても、幹事会の方で、JR北海道の方に確認させていただきながら、その内容を踏まえて、今後の考え方について検討していければと思ひますので、一旦幹事会の方で引き取らせていただいて、検討させていただきたいと思ひます。

この他、何かございますでしょうか。

【共和町長】

協議会でお話しして良いか迷ったんですけど、今までと別な関係で、この並行在来線の話が出たのは、基本的には新幹線を北海道に持ってこようという北海道全体の流れの中で、この沿線自治体が苦渋の選択として、第三セクターを皆さん承認したという経緯がまずあります。

そういった中で、それぞれが皆さん苦勞された、余市町、小樽市、最後苦渋の選択でやられたということでございます。そういった中では、今までの他のJRの廃線の条件とは異なると私は思っていて、こういう中では、北海道全体の売上の中でのお話でございますから、この地域振興策、駅前広場含めて、それぞれの町村で考えが出てくるかもしれません。そういった中では、ぜひ北海道にも、ご相談に乗っていただきながら、お力添えを賜りたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

【北海道交通企画監（座長）】

わかりました。その他ございますでしょうか。よろしいですか。特になければ最後の議題に移らせていただきたいと思います。

（２）その他

【北海道交通企画監（座長）】

今後のスケジュールについてでございますが、「長万部・小樽間」は「バス方式」という方向性を沿線自治体の皆様から確認いたしましたので、今回の協議におきましては、バスルートやダイヤの検討、バス転換の前倒し、この前倒しに伴うJR支援があるのかどうか、この3つの協議事項とさせていただきたいと思っております。これらについて、事務局及び幹事会で検討を深めまして、次回ブロック会議を開催すると、時期は未定でございますけれども、開催させていただくという流れで進めさせていただきたいと思っておりますが、これでいかがですか。よろしいですか。それでは、スケジュールについてはそういうことでお願いしたいと思っております。

それから、全体を通じて何かご意見がございましたら、お願いしたいと思っております。

【余市町長】

先ほども申し上げましたけれども、昨日の3者協議の後の記者会見、小樽市の迫市長と私も考え方について、結構長く説明をさせていただいたので、その点はきちんと少なくとも、文字起こしできたら良いなと思っております。その点はよろしく願います。

【北海道交通企画監（座長）】

わかりました。それは整理してやりたいと思っております。それでは、本日「長万部・小樽間」について「バス方式」とする方向性について確認させていただきました。

新幹線の開業、そして後志自動車道の開通を見据えて、この地域の新たな交通体系が利便性が高まって、利用者の方々が使いやすい交通にするということで、更に交通事業者含め、JR北海道など他の事業者などとも協議を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いしたいと思います。本日の議事はこれで閉じたいと思っております。

以上